

「パラグアイが親日的である理由」

在パラグアイ日本国大使

渡部 和男

この連載では、外交の最前線にフロントラインで活動する外交官に、現地の様子を語っていただきます。今回は、日本語学習なども盛んである国・パラグアイの大使が登場します。

パラグアイは南米のサッカー王国の一つです。2010年6月の南アフリカ・ワールドカップ決勝トーナメントでは、日本とパラグアイとが対戦し、双方で盛り上がりました。本稿では、パラグアイの知られざる一面についてお伝えするとともに、パラグアイが親日的である理由についても探ってみます。

日系移住者と日本語

1936年に開始したパラグアイでの移住の歴史は、ブラジルなど近隣国に比べて比較的新しいものです。2010年は、アスンシオン日本人会創立50周年、ピラポ入植50周年という二つの式典が実施され、節目の一年となりました。日系移住者は農業分野でパラグアイの経済発展に貢献し、パラグアイの人たちからも広

く尊敬されています。

パラグアイ日系社会の日本語レベルが高いということが本邦メディアで紹介されました。その理由としては、1950年代に始まった移住地が多く、移住者の家庭内で日本語が話されてきたことや、これまで6移住地および3都市で日本語学校が設立され、日本語学習が重視されてきたことなどが挙げられます。日本から30時間以上かけてやっと到着する地球の裏側で、日系二世、三世の人たちがわれわれと同じ日本語を話し、



わたなべ かずお

1975年東京大学卒業、76年外務省入省。経済協力局調査計画課長、在スペイン大使館公使、神戸大学経済学研究科教授などを経て、2008年6月より現職。



パラグアイ県小学校での校舎落成式。

日本文化を立派に継承していることには感動します。

パラグアイに対する経済協力

日本は、パラグアイに対する二国間協力のトップドナーであり、インフラ、保健医療、教育などの分野で協力を実施しています。その中の一

つに、草の根無償資金協力を利用して大使館が実施している、公立小学校での教室およびトイレ建設プロジェクトがあります。この協力は1991年から続けてきており、通算170校に対する実績となっており、私もプロジェクト落成式に参加するため、これまで26の小学校を訪れました。この他、実に1000人余りの青年海外協力隊員、シニアボランティアおよび専門家がパラグアイ各地で活躍し、パラグアイの人たちから感謝されています。

グアラニ語とは

最後に、スペイン語と並び、パラグアイの公用語であるグアラニ語について補足します。この言葉は、アジアの狩猟民族に起源を持つと言われる、グアラニ族の言語であり、身体の一部を指す単語など日本語と幾

つかの語彙が共通しています。また、自然に対する崇拜等、日本文化とも通じるところがあります。このグアラニ族と、スペイン人とが混血して出来上がった社会がパラグアイなのです。ですから、私が着任以来さんでいるグアラニ語を話すと、大統領から子どもたちまで目を輝かせて喜んでくれます。グアラニ語、グアラニ文化はパラグアイの人たちにとつて誇りなのです。

親日的なパラグアイ

日系移民の存在、経済協力の実績、そしてグアラニ文化と日本文化との共通点もあり、パラグアイは南米で最も親日的な国であると、われわれは感じています。素晴らしい自然と人に恵まれたパラグアイにぜひお越しください。